

句集「爺」より

(2002)

2001年の夏、父が突然の脳梗塞により、緊急入院を強いられた。入院生活など長い父の人生でも初めての事だった。病床での妄想、嚥下障害、歩行障害等など・・・所謂認知症である。心臓も弱っていた。

以後二ヶ月間病院での治療・リハビリ訓練を経て何とか退院はしたものの、さてそれからが大変だ。田舎では父と母一人きりの生活、長男の私達夫婦は車で三十分の隣町に、私の妹夫婦は同じ町だが車で十五分・・・夫々別々に住んでいる。悪い事は重なり、しばらくして妹の主人が早逝した。それに母とて、腰・膝痛持ちで歩くのがやつとの状態、まして大柄で骨太の父がふらついて倒れでもすれば起こす事も出来ない。折しも私も定年を迎え、東京にいた妻も子供達を残し宇部に帰ってきた。定期的な病院通院、リハビリの訓練、そして時折氣を失った時の救急車の手配。

幸い認知症の症状は大きく悪化しなかつたが、足腰の弱りは顕著で、杖・手摺無しでは勿論歩けず、歩いても三十メートルが限度。大股で歩き、脚立に登り、元気だったほんの少し前が嘘のよう。

父が「こうなつて改めて父の書斎を整理しながら、父の壮大な人生を考えさせられた。NHKラジオの「基礎英語講座」のテキストと自分で録音した何百本のカセットテープの山。「コインと切手」の膨大な蒐集アルバム、ハミリからビデオ時代になるまでの膨大な「ビデオ」のストック。

自分で写し自分で現像焼付けした「写真」アルバム・・そして「これらの見事な整理。倒れるまで打ち続けた「ワープロ」、更にはパソコンに乗り換えなければ・・と、私が譲ったパソコンに挑戦し始めた・・そんな矢先だった。そんな父がどうして?

家では殆んどベッドで横になっているが、幸いにもトイレ、食堂へは私が家中に張り巡らせた手摺に頼りながらだが自由に歩いてくれる、高齢でもあり、ふらついて倒れでもしたら即骨折だろうが、何しろ一つ一つの動作がものすごく用心深い。寝たきりでは無く、とにかく歩いてくれる事が何より有難い。

今は一日三十分歩行訓練のヘルパーさんに来てもらっている。頭のほうは、記憶のどの部分が壊れているのか正確には未だに分からないうが、初めて父と話をする人なら一体何処が悪いのかと疑う程スムースに会話は弾む。唯、先に言つた事を何度も何度と無く繰り返さなければならぬ、母が怒つて「十回も一十回も同じ」とを言わせないで・・」という事が幾度と無くある、そうすると父は「十回も言つてない、五回だろうが」・・何と言つユーモアセンス　?・?

介護度の認定にいつも用いられる検査、「名前と生年月日とお歳は?」・・全問正解である。「今日は何月何日は何曜日ですか?」・・「これは分からぬ、私だつて分からぬ。今見せた五つ品物を言つてください?」・・半分くらいは分かる。「野菜の名前を十個言つて下さい」・・

二つしか言えない・・これが分からないというのがどうも脳解明のボイントの様だ。「三桁の数字を言いますからそれを反対から言つて下さい」・・父には楽勝である。それどころか父は四桁の数字だつて逆から言える、四桁だと私だつて辛いのに。多分算盤の画像が頭の中に入っているのだ。リハビリティサービスに通つている時、銀行員だった父のために、手作りのお札が用意されていた。これを扇状に開きパラパラと四枚ずつを数えてゆくのだ、「これこそ堂に入ったものだ。私も小学校の頃この四枚ずつ数える方法を父から教わり、爾来数十年使わせてもらつてゐる。尤も今は銀行でもこの仕事は機械がやるようになつてしまつた。

もう一つ、「下（しも）のほう」が弱くなつてゐるのが気になる、唯これはどうしようもないことだ、体の方がいう事を効かないのだから。本人も随分気にしてゐる、一度は粗相してしまつた物を窓から外に捨てようとしていた・・・?? 多分、相当綺麗好きなのだろう。外出時どうしても間に合わなくなつた時、「オシメパンツだから・・・いいよ」・・・といつても絶対そうはしない・・・当たり前だ。

介護というのは廻りの家族の者が大変だ。特に高齢の母親には相当の負担のはずだ。何度か、私の家や妹の家にしばらく預かつてみたり、思い切つて介護施設に預ける計画もし、ショートステイを試みてもみたが、「家に帰る、ばあちゃんは?」・・の繰り返しである。折角永年慣れ親しんだ家があるのでから何とか自分の家で気の置けない生活をしてもらひ

たい。私や妹がなるべく父・母の家にステイするようにしている。頑張ってくれ、頑張ってくれ。

その爺ちゃんが、遂に恐れていた骨折をした、96才の夏の事だ。それでなくとも母の状態があまり良くなく、父の夜中の数度のトイレの介助にゅつくり睡眠もとれず限界状態にあり、何よりも母を休ませる為もあり、1週間のショートステイに預けることにした。良く世の中では介護の基本は、家族で抱え込まず専門のプロに任せる事だ・・とよく言われる、何度もその誘惑に負け、何度も預かってもらつた事があるが、馴れぬ施設での毎夜のトイレへの往復時の危険については実は母も僕も心の中では想像はついていた。案の定、預かってもらつていた施設である夜、トイレのためにベッドから立ち上がり、倒れ骨折した。大腿骨骨頭部骨折、96歳での大手術は想像しただけでも大変だが、良く絶えてくれた。

しかし高齢者のお決まりのコース、骨折—寝たきり—嚥下障害—径鼻点滴一肺炎・・・97歳の誕生日を迎えての翌月亡くなつた。

七生の 父の目覚めや明け易し
恙無き父九十年の帰り花

夏ベッド終夜 灯のあり息もあり

金柑を頬張る父や今日も無事

父団みはらから集い雜煮食う
稚児になり仏になりし父の夏
年明くる九十の父の稚児帰り

のれん

呆の父 母呼ぶ声や夏暖簾

古座敷 父のベッドに日脚伸ぶ
我に似る父の爪切る四温晴れ
春雷を聞いてひととき父呆ける
枇杷の種吹き飛ばす父まだ若き

「爺に寄せて」

父さん 九十数年の人生 あなたの勝ち。

優しい家族、

有り余る愛情を一身に受け

安心して残りの日々過ごしてください。

家、仕事、お金、家族、友達、
同僚、女、・・・の事

どんな事があったのだらう、

長い銀行員人生・支店長生活、

それを辛いことも多かったでしょう

だけど今は全てから完全に解放され

最後はあなたの勝ち

あなたは今仏様。

あなたが育てた枇杷、イチジク、柿、金柑、栗、夏みかん

の事はもうじ心配無く、

子供・孫達が一生懸命守っています

あなたが作った家のあちこちの大工仕事は

今は崩れかかり、落ちかけていますが

大丈夫、みんなで又作り変えます

あなたの集めた膨大な切手・コインは、

今僕が全部整理し直しています

袋から出してこない未整理分がたくさんありますよ

全部パソコンに入力してします、

それこしてもすこぶる雑集です。

美味しい物を食べ、しっかり水分を取り、
お風呂にのつづり湯かり、眠くなつたら横になつ

暖かい陽に当たり、庭の縁・花々の生氣を吸

無理に頭を使わなくていい

何も出来なくていいが、

時々は馬鹿な事も叫びて欲しき

時々の採血と防接種の注射の痛さは我慢して下さい、

漏り出してしまったウンチやシッポの事で

母がこじりこじりされてこますが

気にしないでね… ちょっとした血管の病気なんだから

あなたのせいではないのだから

あなたの勝ち

あなたは仮様